

平成17年度 水稻関係生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成17年度水稻関係生育調節剤試験成績検討会は、平成17年12月7日、植調会館会議室(東京都台東区)において開催された。

本年は、健苗育成等を目的としたものの3剤

(適用性2剤5点、作用性2剤3点)、倒伏軽減を目的としたものの2剤(適用性3点)について試験成績の報告および検討が行われた。

薬剤別の判定結果は、次表の通りである。

平成17年度 水稻関係生育調節剤試験供試薬剤および判定・使用基準一覧

〈健苗育成等〉

No.	薬剤名 有効成分及び含有率 [委託会社名]	試験目的	判定	使用基準*	継続の内容
1	CAL-88 粉粒 過酸化カルシウム:16% [保土谷化学]	〔適用性〕 湛水直播水稻の発芽率の向上、苗立歩合の安定(落水出芽におけるコーティング量の適用拡大)	実	処理方法:湿粉衣 使用量:乾粕の等倍量 [北海道] 乾粕の等倍～2倍量 (2倍量未満は落水出芽法と併用する) [北海道を除く全域]	
2	T-2000S 粒 <i>Pseudomonas fluorescens</i> FPT-9601株:10 ⁷ cfu/g覆土 [多木化学]	〔作用性〕 作用変動要因(品種等)の検討 〔適用性〕 苗の伸長抑制効果および薬害の検討	— 継	 	(効果発現条件の検討) ・効果の確認
3	BC-1 粒 枯草菌 乳酸菌 酵母菌 硝酸化成菌 光合成細菌 [*ビージェーエヌ, 日本エメラル]	〔作用性〕 発根促進作用等による苗質向上, 初期生育促進	—		(効果発現条件の検討)

〈倒伏軽減〉

No.	薬剤名 有効成分及び含有率 [委託会社名]	試験目的	判定	使用基準*	継続の内容
1	SSDF-21 粒 ウニコゾールP:0.004% (N-P-K:21-11-10) [住友化学]	〔適用性〕 倒伏軽減効果および薬害の検討(年次変動の確認)	実	処理方法: 全面施用・土壌混和 処理時期: 耕起～代かき時 使用量:22.5～30kg/10a	
2	SSDF-27 粒 ウニコゾールP:0.004% (N-P-K:27-10-7) [住友化学]	〔適用性〕 倒伏軽減効果および薬害の検討(年次変動の確認)	実	処理方法: 全面施用・土壌混和 処理時期: 耕起～代かき時 使用量:22.5～30kg/10a	

*:使用基準が拡大された部分にアンダーラインを付した